

講義科目名称： 成人看護学実習

授業コード： 2230201400

英文科目名称： Clinical Nursing Practice in Adult Health Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3学年	5単位	必修
担当教員			
◎石田和子、◎高柳智子、◎樺澤三奈子、小林綾子、横川史穂子、石岡幸恵、相澤達也、坂田智佳子、杉山潤、佐藤咲子			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 通年 【授業時間】 150時間</p> <p>【担当教員】</p> <table> <tr> <td>【氏名】</td><td>【研究室】</td></tr> <tr> <td>◎石田 和子</td><td>317</td></tr> <tr> <td>◎高柳 智子</td><td>203</td></tr> <tr> <td>◎樺澤 三奈子</td><td>318</td></tr> <tr> <td>小林 綾子</td><td>205</td></tr> <tr> <td>横川 史穂子</td><td>204</td></tr> <tr> <td>石岡 幸恵</td><td>310</td></tr> <tr> <td>相澤 達也</td><td>共同研究室3</td></tr> <tr> <td>坂田 智佳子</td><td>共同研究室3</td></tr> <tr> <td>杉山 潤</td><td>共同研究室3</td></tr> <tr> <td>佐藤 咲子</td><td>共同研究室3</td></tr> </table> <p>実務経験のある教員が担当します</p> <p>【本学の科目区分】 専門科目</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程</p> <p>【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】 ○ ◎ ○ ○</p>	【氏名】	【研究室】	◎石田 和子	317	◎高柳 智子	203	◎樺澤 三奈子	318	小林 綾子	205	横川 史穂子	204	石岡 幸恵	310	相澤 達也	共同研究室3	坂田 智佳子	共同研究室3	杉山 潤	共同研究室3	佐藤 咲子	共同研究室3
【氏名】	【研究室】																						
◎石田 和子	317																						
◎高柳 智子	203																						
◎樺澤 三奈子	318																						
小林 綾子	205																						
横川 史穂子	204																						
石岡 幸恵	310																						
相澤 達也	共同研究室3																						
坂田 智佳子	共同研究室3																						
杉山 潤	共同研究室3																						
佐藤 咲子	共同研究室3																						

到達目標	<p><急性・回復期看護実習> 目的：成人期にある健康障害をきたした人の全体像を理解し、個性に応じた、健康の危機状態からの回復あるいは疾病・障害を持ちながら健康を維持・促進するための看護能力を養う。 目標：1)成人期にある、健康障害をもつ人の状況を全人的視点から説明できる。 2)成人期にある、健康障害をもつ人と家族が、最適な健康状態に回復するために、あるいは疾病・障害を持ちながら生活の調整・再構築を行うために必要な援助ができる。 3)成人期にある、健康障害をもつ人を全人的に受け止め、相互作用を通して自ら看護観を育むことができる。</p> <p><手術室看護・集中治療ケア実習> 目的：手術を必要とする患者や、生命の危機状態にある患者および全身管理の必要な患者の特徴と看護を理解する。 目標：1)高度な集中治療を必要とする患者・家族の特徴と集中治療における看護を理解できる。 2)手術室見学により手術室の環境および手術室看護について理解できる。 3)手術室看護・集中治療ケアにおける多職種チームアプローチの重要性と看護師の役割を理解できる。</p> <p><慢性期看護実習> 目的：慢性的な健康障害を持つ人、および在宅療養への移行あるいは維持を目的とするリハビリテーションに取り組む患者に対する生活の場で療養を継続するための看護能力を養う。 目標：1)慢性的な健康障害を持つ人が生活の場で療養を継続するために必要な看護について、血液透析室の見学を通じて理解できる。 2)在宅療養への移行あるいは維持を目的とするリハビリテーションに取り組む患者への看護について、学内での専門家による講義と看護技術の体験から理解できる。 3)慢性的な健康障害を持つ人を全人的視点からとらえ、実習をとおして自ら看護観を育むことができる。</p>
授業概要	<p><急性・回復期看護実習> ・急性期および回復期にある患者を受け持ち、成人期にある健康障害をきたした人の看護過程の展開を通して成人看護に必要な知識・技術を総合的に習得する。</p> <p><手術室看護・集中治療ケア実習> ・高度な集中治療の場や手術室における患者の特徴と、看護の役割を理解する。</p>

	<p><慢性期看護実習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性的な健康障害やリハビリテーションに取り組む患者の療養を継続するための看護について理解する。
授業計画	<p>授業内容</p> <p>授業形態：実習</p> <p>実習期間：3週間</p> <p>学習課題：急性・回復期看護実習</p> <p>学習内容：急性期および回復期にある患者を受け持ち看護過程を展開し、成人期にある患者と家族に必要な看護について実践を通して理解する。</p> <p>備考：詳細は実習要項を参照すること</p> <p>授業内容</p> <p>授業形態：実習（学内演習を含む）</p> <p>実習期間：1週間</p> <p>学習課題：手術室看護・集中治療ケア実習</p> <p>学習内容：高度な集中治療の場の見学や看護援助に参加し、患者の特徴と看護の役割を理解する。また、手術室見学により手術室の環境および手術室看護を理解する。</p> <p>備考：詳細は実習要項を参照すること</p> <p>授業内容</p> <p>授業形態：実習（学内演習を含む）</p> <p>実習期間：1週間</p> <p>学習課題：慢性期看護実習</p> <p>学習内容：血液透析室の見学により慢性的な健康障害をもつ人が療養を継続するために必要な看護について理解する。また、在宅療養への移行あるいは維持を目的とするリハビリテーションに取り組む患者への看護について理解する。</p> <p>備考：詳細は実習要項を参照すること</p>
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：成人看護学の講義・演習等の学習内容および看護技術について復習しておくこと。 事前課題の指示がある場合は、自主的に学習をすすめること。 ・事後学習：看護の実践・見学場面や学生カンファレンスを振り返り、実習記録やレポートをまとめること。
評価方法、評価基準	評価の詳細は実習要項を参照すること
必携図書	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木志津枝他 編：成人看護学 慢性期看護論，ヌーヴェルヒロカワ 「購入済み教科書」を使用する ・雄西智恵美他 編：成人看護学 周手術期看護論，ヌーヴェルヒロカワ 「購入済み教科書」を使用する ・中西純子他 編：成人看護学 リハビリテーション看護論，ヌーヴェルヒロカワ 「購入済み教科書」を使用する
参考図書・資料等	成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、成人看護学演習で使用したテキスト・配布資料。その他の参考図書は、随時、口頭またはどこカレ「成人看護学」コースで紹介する。
受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション前に実習要項を読んでもくること。 ・看護技術に関して不安な点は、成人看護学実習室を活用し各自で復習をしておくこと（実習室の開放スケジュールや使用方法については、別途オリエンテーションを行う）。 ・欠席に対する補習実習は、『臨地実習の概要』記載の基準に則って検討する。
教員からのメッセージ	実習は、看護を必要とする患者・家族との関わりを通して対象者を理解することを学び、看護過程を展開する貴重な学習の場です。講義・演習で学んだ知識・技術を生かしながら、臨床だからこそ得られる学びを大切に、主体的に自己の知識・技術・態度を発展させていきましょう。
オフィスアワー	